

### (3) 中学校の実践

単元の導入でその活用を試みた。生徒のアメリカに対するそれまでの既成のイメージや思いを取り出し、そしてHPの活用を通して目に見えるアメリカの生活の理解と日本の生活との違いのギャップから、アメリカに対する生徒の興味・関心を高め、疑問が浮かぶのではないかと考えたのである。

「日米ライフスタイル比較」を活用して

- ・アメリカには、危険なイメージしかなかったけど、調べてみるとなんか楽しそうな国みたいになってきた。でも、日本とアメリカでは生活がぜんぜん違うと思った。
- ・アメリカは、大きいってイメージだけど、日本とそんなにかわらないと思いました。チップとか、あることはいいことだと思います。何で、日本はチップがないんだろうと思いました。
- ・日本の運動場が土でアメリカは芝生だから、日本もこれからこうなるのかな。
- ・アメリカは自由のようにみえて、すごいルールに厳しい国だなと思った。そしてサービスにうるさい国だ。
- ・自由というイメージが大きかったけど、学校については厳しいと思う。アメリカってこんなに違うのかなと思いました。

特に学校生活について多くの子が目を向け、制服の自由度、教室の人数、さらにランチルーム、そして高校生から車の免許が取れるなど、アメリカの自由な雰囲気のある学校に、調べ始めた当初はうらやましさを感じていた。しかし、小学校でも出される反則切符などが分かってくると、「アメリカは自由のようにみえて、すごいルールに厳しい国だ」「学校については厳しいと思う。アメリカってこんなに違うのかなと思いました。」と、自由の背景にある規律と責任というアメリカの国民性も見えてきたようである。

生徒はアメリカの生活をたいへん身近に感じたようである。そのために生徒のアメリカ観、今までの画一的なイメージではなく、人々の生活を意識した幅広い見方で考え、大きく変化した。生徒の感想からも、導入としての意識づけには効果があったといえる。

### (4) 高等学校での実践

英語部員に、説明をしながら見せた感想は次のようである。

アメリカと日本の生活などを見てたくさんの違いがあり、そしてその中にはとても驚くようなことがありました。まず驚いたのは、学校では門というのが見あたらず、日本より授業がぐっと短いことでした。しかも授業は先生が生徒たちの教室に向かうのではなく、生徒がそれぞれの教室に向かうところが日本とはぜんぜん違うなと思いました。でもいろんな面でアメリカは自由でいいなと思ってはいたけれど、そうではなく逆に日本より厳しいなと思いました。特に驚いたのが先生に反抗したら1年間の停学。それは日本では考えられないと思いました。日本の学校の場合、たとえ先生にけがを負わせたとしても1年停学ということはありません。日本はそういう点では生徒の方が権力が強いのではないかなと思いました。食生活の点でもかなり違いがあるなと思いました。日本では米が主食なのにアメリカでは肉が主食、しかも日本よりかなり量が多い。かなりの驚きでした。日本とアメリカではたくさんの違いがあったけれど、みんな同じ地球に住んでいるので少しでもいろんな世界の人と接して、そしてそれぞれの国の生活をもっと知りたいと思いました。

アメリカの学生はずいぶん自由なんだなと思った。髪の毛を染めたりして怒られている日本とは大違いです。きっと個人でしっかり管理できるからでしょう。食生活にも驚きました。肉をたくさん食べるのは知っていましたが、日本でのポテトチップスも昼ご飯に食べているなんて、私ならごはんを食べている気にならないと思います。地下室があるのもよいと思いました。地下の方が静かで落ち着けそうで、日本の普通の家にも地下室が欲しいです。見比べるとはおもしろいですね。

## 6 おわりに

アメリカ理解の少しでも助けになればという気持ちで、ホームページを作成してきたが、満足のいくものであったかどうかは疑問である。「人種のるつぼ」といわれるアメリカのライフスタイルをまとめて語ることは、不可能に近い。しかし、アメリカを目の当たりにしてわかったことが数多くあった。有意義な機会を与えてくださったことに感謝したい。